学校番号	3010

令和5年度　　工業（映像デザイン）　　科

教科	工業	科目	課題研究	単位数	3 単位	年次	3 年次
使用教科書	自主編集教材						
副教材等	なし						

1担当者からのメッセージ（学習方法等）

映像デザイン科の主要な3つの分野（写真・ビデオ・マルチメディア）を各自の進路目標に合わせてコース選択制の形で学習します。映像デザイン科でこれまで学び、身に付けた知識や技術を生かし、生徒自ら問題意識を持って課題を設定し研究します。実習はコースごとに班別で学習しますが、プレゼンテーションはクラス全員で行います。またすべてのコースで工芸高校展作品制作（写真作品）を行います。

履修条件
なし

2学習の到達目標

これまでの学習により身に付けてきた知識と技術を活用させ、専門的な知識と技術などの深化・統合化を図り、映像デザインに関する課題の解決に主体的に取り組み実践することができるようにする。課題を見つけて分析・検討を繰り返し、自らが解決出来るようになる。作品制作工程を計画し、合理的に進めるようになる。また、様々な方法でのプレゼンテーションを行う。

3学習評価 評価 規準 と評価方法

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	工業技術（映像デザイン分野）に関する広い視野を持つことをめざして自ら学び、映像デザインの発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。	工業技術（映像デザイン分野）に関する課題を発見し、映像デザインに携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付ける。	自ら設定した課題に対して有効的に解決するための技能を選び、研究し習得する。	工業技術（映像デザイン分野）について映像デザインのもつ社会的な意義や役割と人と技術のかかわりを踏まえて理解する。
評価方法	・学習状況の観察 ・ワークシートの記述 ・作品 ・レポート ・発表 ・自己評価 ・相互評価　等	・学習状況の観察 ・ワークシートの記述 ・作品 ・レポート ・発表 ・自己評価 ・相互評価　等	・学習状況の観察 ・ワークシートの記述 ・作品 ・レポート ・発表 ・自己評価 ・相互評価　等	・学習状況の観察 ・ワークシートの記述 ・作品 ・レポート ・発表 ・自己評価 ・相互評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	写真コース	自由にテーマを設定し作品を発表する。1、2年次に学習してきたことを活かし、写真による新しい表現方法や可能性について研究する。 コンセプトワーク 試作 中間発表 制作 プレゼンテーション	〇	〇	〇	〇	a:計画的に課題に取り組むことができる。自ら考え、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。 b:写真作品を発表する目的を理解し、表現方法を熟考して手段を正しく選択できる。 c:それぞれの課題に関する技術や技能を身に付け、意図に応じて丁寧に作品制作を行っている。 d:それぞれの課題に必要な知識を判断し身に付け、より深く研究できる。	技術習熟度 出席状況 実習態度 提出作品
前期	ビデオコース	自由にテーマを設定し作品を発表する。1、2年次に学習してきたことを活かし、ビデオによる新しい表現方法や可能性について研究する。 コンセプトワーク 試作 中間発表 制作 プレゼンテーション	〇	〇	〇	〇	a:計画的に課題に取り組むことができる。自ら考え、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。 b:写真作品を発表する目的を理解し、表現方法を熟考して手段を正しく選択できる。 c:それぞれの課題に関する技術や技能を身に付け、意図に応じて丁寧に作品制作を行っている。 d:それぞれの課題に必要な知識を判断し身に付け、より深く研究できる。	技術習熟度 出席状況 実習態度 提出作品
前期	マルチメディアコース	自由にテーマを設定し作品を発表する。1、2年次に学習してきたことを活かし、映像デ ザインによる新しい表現方法や可能性について研究する。 コンセプトワーク 試作 中間発表 制作 プレゼンテーション	〇	〇	〇	〇	a:計画的に課題に取り組むことができる。自ら考え、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。 b:写真作品を発表する目的を理解し、表現方法を熟考して手段を正しく選択できる。 c:それぞれの課題に関する技術や技能を身に付け、意図に応じて丁寧に作品制作を行っている。 d:それぞれの課題に必要な知識を判断し身に付け、より深く研究できる。	技術習熟度 出席状況 実習態度 提出作品

後期	工芸展作品制作	工芸高校展自由写真作品制作	〇	〇	〇	〇	a:計画的に課題に取り組むことができる。自ら考え、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。自主的・継続的な学習を通じ、造形に関する探求的・創造的な能力を身に付けようとしている。 b:目的を理解し、達成するために、適切な手段を講じ、創造的な表現方法を工夫している。 c:それぞれの課題に関する技術や技能を身に付け、意図に応じて丁寧に作品制作を行っている。 d:それぞれの課題に必要な知識を判断し身に付け、より深く研究できる。	技術習熟度 出席状況 実習態度 提出作品

※　表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c:技能　　d: 知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。